

(別添4)

## 【宮崎県】

### 1人1台端末の利活用に係る計画

#### 1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

「令和の日本型学校教育」の構築を目指した中央教育審議会の答申(令和3年1月)及びそれに続く政府の議論等においては、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげることが求められている。これまでの先進事例等による研究から、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実と「ICT活用」はベストミックスであると言われるように、これらの実現において、1人1台端末の活用は、重要な役割を担っている。

さて、今回の端末更新を行う対象15校においては、それぞれの学校や児童生徒の実態等に応じ、GIGAスクール構想により整備されたICT環境のもと、研修や授業研究を行い、1人1台端末の効果的な利活用に向けての実践を図ってきた。今後、GIGAスクール構想第2期に向けて、リーディングDX指定校等の先進事例等も踏まえた上で、以下のような児童生徒の学びの姿を目指していきたいと考える。

まず、「個別最適な学び」の実現において、児童生徒は、1人1台端末を通じて、個々の理解度や学習ペースに合わせた、より1人1人の児童生徒の実態に応じた学習計画に基づいて学びを進めるものとする。さらに、学習データを活用し、生成AI等により、リアルタイムにフィードバックを受けたり、学習におけるアドバイスを受けたりすることで、自らの可能性を最大限に引き出すことができ、学習に対して、高いモチベーションを維持することを目指したい。

また、「協働的な学び」の実現において、児童生徒が、他の児童生徒、地域の方々、専門家等とチャットやオンライン会議でつながり、課題解決に取り組む機会をより増やしていくことで、多くの他者の考えに触れ、自己の考えを広げ深めることができるようにする。また、グループワーク等を通じて、多様な他者と協働することを通して、現実社会で必要とされる非認知的スキル等を身に付けさせたい。

#### 2. GIGA第1期(～令和5年度まで)の総括

令和2年度に県立中学校2校に369台(Windows)、中等教育学校前期課程に122台(Windows)、特別支援学校小学部・中学部に844台(iPad)、合計1,335台の1人1台端末を整備している。また、各県立学校の通信ネットワーク整備を行い、令和3年度までに、全ての県立学校において大容量通信ネットワークや周辺機器等も含めたICT環境の整備が完了している。

さらにネットワーク整備については、ネットワークアセスメントを導入当初の令和3年度から実施し、不具合の原因を逐次明らかにし、ネットワーク環境改善に向けた対応を行ってきた。

これらICT環境の整備に加え、県教育委員会では、教員の研修の充実を図り、教員のICT活用

指導力の向上に計画的・戦略的に努めてきた。具体的には、ICT活用推進に向けた研究モデル校の設置や県教育研修センターにおけるICT活用に関する研修の充実、さらに教員が授業や校務等で活用できるオンデマンドコンテンツの開発等を行ってきた。これらの取組を通して、本県における教員のICT活用指導力（文部科学省：「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」）は、年々向上しており、今後もこれら取組の継続が望まれる。

しかし、本県においても、授業におけるICT活用や校務DXの推進状況について、学校間での取組の差が生じてきている。

そこで、教員のICT活用指導力のさらなる向上を目指し、全ての学校が授業や校務において、積極的にICTの活用を図ることができるよう、これまでの研修等の取組に加え、令和5年度よりGIGAスクール構想第2期を見越して、学校種を超えて、全ての学校代表が参加する協議会（ICT教育エリアミーティング）を設けている。これにより、教員がICT活用について、協働的に対話を行うとともに、互いの教育実践からICTを活用した指導法や校務DXの改善について学び合う機会をつくり、児童生徒の発達段階や障がい種に応じた効果的なICT活用の在り方について研究を深め、本県や対象校が抱える課題解決につなげていきたい。

### 3. 1人1台端末の利活用方策

本県では、令和7年度に対象校15校の端末更新を計画しており、更新にあたり各学校及び関係各課が情報共有を図りながら、更新作業を進めていく予定である。さらにGIGAスクール運営支援センター事業や継続的なネットワークアセスメントを行うことで、児童生徒にとってさらに充実した1人1台端末環境を維持していくことを目指したい。

これらICT環境の充実を前提として、1人1台端末の効果的な利活用推進に向けて、次の3つの視点から目標達成に向けてその具現化に迫りたい。

#### (1) 1人1台端末を積極的に活用するために

対象15校では、これまでも授業や校務におけるICT活用に関する校内研修を実施し、県や外部機関が実施する研修会にも教員が積極的に参加している。（令和4年度学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果より）

今後は、各学校のニーズや課題に応じた研修を実施するとともに、学校代表が参加するICT教育エリアミーティングでの学びを各学校における研修に生かしたり、校務支援システム等による情報の提供を行ったりすることで、全ての教員へ効果的な利活用についての情報共有を図りたい。

#### (2) 個別最適・協働的な学びの充実を図るために

児童生徒が「自分で調べる場面」「自分の考えをまとめ、発表・表現する場面」「児童生徒同士や教員とやりとりする場面」において、積極的に1人1台端末を活用することができるよう、ICT教育エリアミーティング等において、具体的な活用事例の情報共有を図っていく。また、県内の教員が情報共有できるためのクラウドを活用した仕組みをつくり、広く周知を図りたい。

さらに1人1人の児童生徒の実態に応じた学びを進めるために、「複線型の学び」や「自由進度学習」について、リーディングDX指定校等の先進的な取組について紹介し、各学校において研究が深まるようにしたい。

### (3) 全ての児童生徒の学びを保障するために

不登校の児童生徒、日本語指導が必要な児童生徒及び障がいのある児童生徒等に対し、1人1台端末を活用することで、学びの幅を広げ、さまざまな状況の児童生徒の学習機会を確保していく。各学校の実態にもよるが、1人1台端末を活用し、希望する児童生徒に対し、教育相談を行ったり、オンラインでの授業を行ったりすることが考えられる。

また、障がいのある児童生徒については、児童生徒の特性に応じ、入出力支援装置やデジタル教材等を整備することで、学習の効果を高めたい。

## 4. 今後の計画について

これらの現状等を鑑み、今後は以下の項目について重点的に1人1台端末の利活用を推進する。またそのための具体的な取組を各項目ごとに設定する。(全項目とも令和6年度から取組を推進する。)

### ○ 研修等の充実

- ・ 毎年度、ICT活用等に関する研修を全ての教員が受講できるようにする。
- ・ 個別最適・協働的な学びの充実のために、ICT教育エリアミーティングにて具体的な活用事例を共有する。

### ○ 教員への情報提供

- ・ 校務支援システム等を活用し、端末の利活用に関する情報提供を行う。
- ・ 個別最適・協働的な学びの充実のための情報共有の仕組み(教員向け)をクラウドを活用して作成する。
- ・ リーディングDX指定校等の事例も含めて、生成AIの活用について、先進校の事例等を紹介する。

### ○ 全ての児童生徒の学びの保障

- ・ 不登校や日本語指導が必要な児童生徒、障がいのある児童生徒等へのオンラインを活用した指導の充実を図る。
- ・ 児童生徒の特性に応じた、入出力支援装置やデジタル教材等の整備を図る。